

働き方・休み方改善 ハンドブック

情報通信業（情報サービス業編）

IT社会における
ワークスタイル
を求めて



目次

はじめに	2
1 わが国における仕事と生活の調和の推進	3
2 変革期にある情報サービス業	4
3 情報サービス業におけるワーク・ライフ・バランス実現の意義	5
4 IT エンジニアが働く職場の現状	6
5 長時間労働の抑制・年次有給休暇取得促進に関する課題	8
6 長時間労働の抑制・年次有給休暇取得促進のための取組事例	9
企業における取組事例	
【A社】 経営トップが牽引し、各部門が連携して取り組む	11
【B社】 独創的なさまざまな施策で時間外労働の削減と年次有給休暇取得を促進	13
【C社】 柔軟な就業形態が生産性を向上させ、長時間労働を抑制	17
【D社】 日報システムで時間外労働を削減し、連続休暇制度で年次有給休暇の取得を促す ..	19
【E社】 朝型勤務への転換で従業員の「働き方」に対する意識を変革	20
いろいろな取組事例	22
企業プロフィール（一覧）	29

はじめに

この「働き方・休み方改善ハンドブック 情報通信業（情報サービス業編）」は、情報サービス業において、働き方・休み方の見直しの取組を企業が自ら推進し、業界各社の経営及び労働環境の改善により総労働時間の削減によるワーク・ライフ・バランスの実現を図ることを目的に作成されたものです。

情報サービス業は、複数のエンジニアがプロジェクト・チームで仕事を行うため、作業の進捗管理や製品の品質管理が難しく、個々人の経験やノウハウに依存する傾向や、仕事に従事する場所が開発プロセスにより、自社の事業場だけではなく、顧客先に常駐して業務を行う場合もあるなどの特徴があります。しかし、そのような中でも工夫を凝らし、生産性を向上させることなどにより、長時間労働の抑制と年次有給休暇の取得促進を図っている企業があります。

このハンドブックでは、自社での取組を考えるに当たってのヒントとなる事例をお示ししています。

働き方・休み方の改善は、情報サービス業の最大の経営資源である「人材」の能力や経験を引き出す、企業にとっても大きなメリットとなる取組です。

まずは、企業の経営者や人事労務管理者の皆様から働き方・休み方改善の重要性を理解し、自らが率先して、働き方・休み方改善の見直しに取り組んでいきましょう。

また、社員の方にも本ハンドブックを手にとりいただき、自らの働き方、休み方について、何かしらの気づきを見つけていただく機会としましょう。